

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	Phase Angle は在宅高齢患者の栄養状態、日常生活動作そしてフレイルを反映する
演者名	上田 康夫、辻 真人、川崎 みどり、森井 まゆみ、田中 章太郎
所属	たなかホームケアクリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

高齢者の栄養、日常活動性(Activities of daily living: ADL)の低下は生命予後に直結すると考えられ、そうした高齢者の虚弱性の表現としてフレイル(虚弱)の概念が注目を集めている。われわれは、在宅医療現場において直面する高齢患者のフレイル評価のために、Bioelectrical Impedance Analysis (BIA)パラメーターの一つである Phase angle (PA)の応用を試みた。

方法

対象は自院の在宅訪問患者 55 例(男 17 名、女 38 例、 78.6 ± 13.1 才)と対象 6 例(53.0 ± 17.7 才)で、Bioscan (エムピージャパン)を用いて右手足間の PA を測定し、年齢、栄養、ADL および褥瘡との比較検討を行った。患者の栄養評価には Mini Nutritional Assessment-Short Form (MNA-SF)、ADL 評価には Barthel Index (BI)を用いた。

結果

1) PA は年齢とともに低下し、両者間には $r = -0.552$ ($p < 0.001$)の負相関を認めたが、70 才以上症例に限ると両者の相関性は認めなかった($r = -0.238$:NS)。2) 70 歳以上で MNA-SF:0~7 の症例群における PA は、BI>80 群で 3.7 ± 0.2 度、BI:20~80 群で 3.4 ± 0.4 度、BI<20 群では 2.7 ± 0.6 度と BI 下降とともに低下した($p < 0.01$)。一方、BI:80~100 の症例群における PA は、MNA-SF:12~14 群で 4.7 ± 0.5 度、MNA-SF:8~11 群で 4.5 ± 0.3 度、MNA-SF:0~7 群で 3.7 ± 0.2 度と MNA-SF 下降とともに低下した。他方、これらの各群間の年齢には有意差を認めなかった。3) 褥瘡合併群の PA は 3.0 ± 0.6 度と非合併群 4.0 ± 0.8 度より低値であり($p < 0.001$)、同様の傾向は MNA-SF、BI においても認められた。4) 70 才以上症例において、PA 変化に関連した BI および MNA-SF の変動は年齢に関連した変動より明らかに著明であった。

考察

在宅高齢患者において PA は年齢、栄養、ADL と独立的に関連する。客観的臨床指標の得難い在宅診療において、PA は高齢者のフレイル評価に、簡便、無侵襲、かつリアルタイムな定量的評価法として応用しうる可能性がある。以上の検討に実際の臨床例での分析を加えて詳説する。